

改革案批判

現実を忘却した 改革はあり得ない 理念にはなく現実を問題にせよ！

□ はじめに

市大改革ヨリ半が半年に及ぼうとしており、又、政府文部省、自民党が7年安保改訂期と前にとり以降も見どかした日本市大主の再編の一環として、大学・教育の市大主の再編を遂行すべく今延長国会で大連盟設立法あるものを施行せんとしている中で、7月20日太田開設会議の諮詢大會問題特別委員会の大連盟設立改進要綱を全般に成員の意見たる改革討議と大学改進要綱を採用したところにあり方に関する学内外の方林立託業とハサトによるもの試案であり、としている。

二つ好しく我々は、現実の情報の中で、つづき改革案要綱の持つ意味と内容を正確に把握し、全般の学生、院生、教職員の前に明らかにすると同時にその下から今后の方向性を明確にせねばならない。学内諸階層との二つの「改革要綱」に関する討議はすぐに始つてゐるのであつたが、その中で無原則な討議が行はれたり、又、一方、内容、批判を抜きにしてキツケとツケテルなりによってこ处理してしきう部分も存するだう。

我々は無原則的な討議や内容批判を抜きにしてキツケ、ツケテル貼りを徹底して拒否せねばならない。それ故に、まず第一に我々は二つの「改革要綱」なるものを把握し、評価する際の我々の想定を確立する必要があるだろう。

① 「改革案要綱」の評価の粗見

「現実を忘却した無原則的討議を拒否せよ！」

おども、一つの「改革要綱」にせず類似物にせず、重に各部で「改革案」になるものが提示されるであらう。無原則的な討議は現実から離れて所が何らものである。一つの「改革要綱」も現実ならはされに他ならない。それ故、我々が一つの「改革要綱」と把

握し評価する際の現実で絶対に欠落べそこはならぬのは、現実との關係である。「要綱」なるものが一読されに人はオーに察じて思つたが、現実との關係が極めて希薄である以上、それ自身を取沙汰する中に、我々自身がともすれば現実との関係を喪失する。「要綱」を指摘する必要があるだろう。この史を指摘する事は簡単に「改革要綱」を評価する際の問題に留まらず、現在、斗争抜かりで、全国学園ヨリ市大改革斗争の中での「改革」何が、再度、確認する際の重要なものである。

我々が無原則的討議を拒否するためには、常に現実との関連において全てを記さなければならぬ。現実なら切り離さずに纏めの必然的「現実化せざるぞえず、又、その「現実」の何たるかは現実を抜き去つてしる以上、これは結構に難が論議である。この現実論議をクリアされ、又、具体的な改革を限の彼方にわしやり、我々を現実を切り離す役割りしろ持たない。(我々をとりまく現実は、政府・自民党・大学臨時議會法委員会)一段落のうちに進行投票をはなろうとしてわり、又、市議会自民党とも結託して、医療部斗争、市大改革斗争を無に帰そうと運動していけるのだが、従つて我々は、あくまで孰うか程にまで現実との対比の中で、この「改革要綱」なるものを取り扱わなくてはならないし、その評価の想定、あるいは草案もすべて現実の中にありそれが現実の要請——政府側の大学及び教育の田舎支配に對決し、眞実の眞の

へ ウーラー続々く

意味での科学と民主主義、反独占の精神としての斗争入等

を建設する事 既に施行大學制度及政府文部省の教育政
策、大學政策の由で生みだして來た諸矛盾を解決するに
留まらず、二度とまのよきものを許さず體制を整え
て、今後も争うてこそ、かう心をうるヌダガマの基準である。

大學改革は理念の世界ではなく、現實の世界の極めて実践的な問題なのである。大學の理念にせよ、ある理念が正しいか否か、眞理であるか否かは、なんら理論の問題ではなく、一つの実践的・問題なのだ。いいえれば、如何なる改革の方針性が政府保守の攻撃に最も有効に対抗しうるか、又それを粉碎しうる体制を構築でこなすかが一切の基準である。一実践なら逃避されていける思惟が現実的であるか非現実的であるかという説争は、一回の範囲でたるスコラ学的・問題である。——ライエルベバに傳するオニティゼン

2 改革案要細批判

今後の我々の斗争の方針

我々は以上の現実を確立した上で、一改革東要綱の
権利に移りたるよりはならぬなり。まるやーにこゝへ改革
案要綱」が極めてタイツなものがめまことに我々は
気付く。向故か、それはこの「改革要綱」が どうぞ
どう「形成」されたか? わの「カラナイ」理念から
出発していゝ事に起因する。そしてその理念に基いて
改革」の方向性を導きだそうとしている。そこでは
現実が抜きそられたり 徒つてせつかく30日余もじ
ごとに、もつと、枚リ上げられた「改革要綱」も
主觀的にはそれなりに現実の要請に応えようとしていたもの
であるこそ 現実との關係が極めて直捷であつて上
即ち現行大学の諸矛盾が何故に生來して来たのか、向
故に「民王的」といわる事大においてさえ それを
阻止する事ができなかつたのかを あらわいにしてい
る以上 現実の問題それゆえに実践的な問題に何らか
ある事がでござるゝだろ。

「要綱」は第一回「大學の理念」から出来ます。おまえの理念のなるものがアブリオリに存在するものでない以上、どのような過程で形成されたものであるのかを問題にする必要がある。「要綱」はこの点について、「木戸のオーラー即ち大學の理念」はこの根本題へ大學の本質、大學の使命など、に対する大學側の深い反省が生じたものである」というラ

一行で片づけてしまつてゐる。「深い反省」とは一体何を意味するのだらうか。少なくとも言ふことは過去を含めた現実の大学、歴史的社會的存在としての大学、學向に対する考察、分析、總括がうまく「超」歴史的、超階級的な、あるべき姿が理念の問題としまして追求、「反省」されたものであつて、ことある。それで一部「大學の理念」は、……べきである。」ねばならない。といふ言葉で太田の「あるべき姿」が展開されてゐる。しかしも、こと重要なのは、べきであり、ねばならないといふ言葉で太田の「あるべき姿」が展開されてゐる。つまりの如き、「大學に現実の大學、學問あるべき姿」がえり立つて、又足りえなかつたのを問題にするのである。現在、市大が算上、主にチケット等を種々な学科を設けたので、又足りえなかつたのを問題にするのである。それは、現実の大學、自由研究的に規定されヒナ等で、その上、現実の大學、自由研究的に規定されヒナ等であつて、眞正の本質、大學の理想、それ自身である。更に現実の大学、現実の諸条件に規定されて、ありうべき姿、になりどき、おりうべき姿を眞正論調にしてみたが、問題の諸条件を变量するのである以上、現実の大学は一向に变量しないであつて、又、あいうべき姿、とゞらに接近するものであるべき姿を、具体的に語つう。例へば、医國部に於いて破綻せる現実を变量するのである。何世の現実の中から眞正な現実にするのである。その点で云ひ、「ナイン、イヌオロギー、マルクスエンゲルス)の中に次のようないふべき用意しておこう。「まだ王室とは戦々としてつづつマーベルの如き、現実を真摯としてなりければならぬ一つの理窟でなければ、我々が其た王室と略さるのは、日本の状態を離棄するところの現実的運動である。」この運動の諸条件のうち現実なる前段から生きていく。」
「よくして「現実」を確立して「眞正」に昇る一部を寫す。第一の基本的方針にある。「(1)において、ガ一章、ガ成員の参加、ガ二章、眞正運動組合、ガ三章、研究委員会制が四章、ガ学部同門会について、それより、従来の「眞正」ととの对照、「反省」とその反省、人のもの加えられてこいるが、それは正に現実の眞正に屬さつておらず、ガ一部のナキが選ばれて、異なる、或いは、それとあわざる

その立ち在ることに留まつた。…と、いふ反対であり、それは、
それが改革の基本的方面の、"理念"、に重んづくもの、
或いは、そこから離れたものである。即ち、お
りうべき想像、から、"おりうべき想像の方面"、お
りうべき哲理、裏面組織、…という形になつてゐる
のである。従つて、この"改革の基本的方面"によるこ
れの問題は、たゞ古々としての皇族的な問題は、

二の丸。或いは、『やつてこみながら、ワカラナイ』問題
といひこころのである。確々に「會主義をすぐりて更
政内閣問題である以上、如何なる政策にせらるゝ事に現
実の議論にむかうる事どうぞ、我々の実践に於いては、
趣旨されるべきはなきなり」という意味に於いては、
この「守綱」に委ねて、「改革」の基本的の向にゆき、
て「政治的上と實く対応できること」と「現行ナシ
制度を生かして、又に諸が良き解法し、一層となるる
諸を旨をなすにいたるに、この体制を廻り組みえない」
ことつこと半体の形成板にこじり断言する所である。

いなし、想ひのナ等、一にあひの「中古社会的構定
性の甲の」國を結び、更にナ商賈時一表、口手皆
主導的路線の強化をも、今日予想するのむちの
形での貿易往來に、國への再編成、配置の強化、そ
してこれに対する諸民族の側の力量(単に蒙古だけ
の力ではなく、時代背景のナリナシ)を考慮す
るならば、我々の側の力量の前進へ(貿易場所に移る
ある可能性を持つこと)、アーリヒ、コレントの
条件の困難性を想起せば、アーリツの基礎的につて、七
學——藝術の場におけるアーリツの藝術体制、ナラニー族
の形成が要請されるのである。その意味で、我々はア
ーリツを量を置つゝも、必ずアーリツの体制の框架を自由の前
提であり、民衆語を盡る語るめんや、ハヤハヤの「堅主」
(日本向研究室の自由選用)と現行ナ國管理体制の
統合にてナ革リロアナ皇主制路線の制度的保障を
もたらす自らの否定の局勢に至らざりとのことで、絶対に
ハヤシ、アーリツの出生を想起するのと、眞に並んで
のとくにナ國の新行旅員を起用してのための制度的保障
!!全員が軍制官治多の威儀的出生、台裏事務の実行員